



令和6年1月9日
(配信:12月26日)

佛教大学附属こども園

「仏教保育1月のねらい」

わげんあいご

和顔愛語

「辰年を迎えて」

園長 佐藤和順

辰年を迎えました。新年明けましておめでとうございます。旧年中は、こども園の運営に関しましてご理解、ご協力をいただきありがとうございました。1月は旧暦の「睦月」です。家族や友達が仲睦まじく過ごしていけるようにとの意味もあり、1年の始まりにふさわしい呼び名です。今年も子どもの人格形成の基盤、心や身体の根っこを育てるべく、教職員一同力を合わせ、がんばって参りたいと思います。どうぞ、1年間よろしく願っています。

今月の保育の目標は「和顔愛語（わげんあいご）寒さに負けず仲良く遊ぼう」です。「和顔」とは、心と顔の両方が常に優しい気持ちでいること。「愛語」とは、周りの人を思い、優しさを持って話すということです。つらい時、悲しい時、くじけてずっと情けない顔をしてはいけません。どんなときでも笑顔を忘れず、仲良くしていきましょうということを園児には伝えていきたいです。

「目は口ほどにものをいう」という言葉があります。相手の目や表情を見れば、喜んでいるのか、悲しいのかなどなんとなくわかることがあります。常に笑顔でいることができれば問題はありますが、うまくいかないことが多いのが現実です。つらい時こそ少しがんばって笑顔を作ることも、逆境から抜け出すよい方法かもしれません。「笑う門には福来る」ともいいます。笑顔に誘われて心も明るくなることでしょう。

また、「言霊」ではないですが、言葉の力はとても大きく、使い方次第で気持ちが楽になることもあれば、誰かを傷つけてしまうこともあります。優しい言葉を聞けば気持ちや心が穏やかになり、逆に批難や悪口を聞けば嫌な気持ちになります。人に優しい言葉をかけることができる人は、人からも優しい言葉をかけられるでしょう。

子どもが成長していく過程には様々な喜びや困難があります。まわりの大人たちが「和顔愛語」の精神で子どもと向き合うことで、子どもは安心して心豊かに、思いやりのある子に育つのです。まずは家庭から、私たち身近な大人が実践していくことが大切です。

新しい1年がスタートする1月。日頃、どのように子どもや周りの人に接しているのか、振り返ってみる良い機会です。「和顔愛語」で笑顔に満ちた一年であることを願いたいものです。

